

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.7 平成25年8月22日発行
発行責任者：八木 博

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
mail info@soya-teachers.org web : http://www.soya-teachers.org

学校づくりと人事の取り組み

今こそみんなで、学習を進めよう

宗谷教組では、また夏がはじまったばかりの頃から、来年の春のことを考え始めています。「二〇一四・学校づくりと人事の取り組み」です。宗谷の「学校づくりと人事の取り組み」は、すべての学校の教育条件整備と、「おかしな人事」を生み出さないための人事の民主化を目指す取り組みです。そのために、ひとりひとりが「自分事（じぶんごと）」として考えることが何よりも大切です。

求められる情報化

昨年度の人事では、人事課題があるにも関わらず宗谷教育局からの公的な情報提供は人事の最終盤まで行われませんでした。その結果、宗谷のすべての先生方が管内課題を理解し、人事異動について考える時間的余裕がないまま、終結に向かいました。

次の学校をどうで迎える？

教師としての生き方と、ライフサイクルを合わせて考えることの大切さは言うまでもありません。さらには、この宗谷の地で「次の学校をどこで迎えるか」ということを意識し、積極的に「エリア間異動」を考える必要があります。一方で、組合員のみならず

学校づくりと人事の取り組みは、管内の教育関係者が必要性を認め合い求めあうこと

でなされる民主的な取り組みです。そして、そこには宗谷教育局による情報発信が不可欠であり、宗谷教組としても教育関係者とともに求めていく姿勢です。

宗谷教組の

発信力で

一方で、昨年度の人事の動きの中で組合にこんな質問が寄せられました。「あの街の学童ってどうなってる？」「この街に行ったら私の生活要求はかなえられる？」というものです。人事の終盤、管理職から異動希望範囲の拡大を求め

られる中で、春からの自身の姿と街の様子を重ねあわせるための大事な声です。

困った時に相談できるのが組合です。組合だからできる情報発信もあります。今年的人事の取り組みは、宗谷教組の発信力で管内の教育環境・生活環境を情報化することからはじめます。

「支部がまとめる街の情報」

「稚内から札幌に行くなら、特急とバス、そして飛行機も！」というのは、宗谷にいる方の多くは想像がつくと思います。ならば、別のあの街ならどうでしょう。なかなか住んでみないとわからない

みんなで集まって語ろう 支部学習会と 「10月5日学習交流集会」

学校づくりと人事の取り組みで大切なことは、人事異動要領をはじめとする人事のルールを正しく理解することと、人事の取り組みを自分のこととして考えることです。そして、こうした取り組みには集まって語る学び合いが欠かせません。

各支部では学習会が企画されます。さらに10月5日には、稚内で管内的な「学習交流集会」を行います。各支部交流、経験談などから学校づくりと人事について考え合ひましょう。



昨年の全分会長会議の様子

こともあるはずですが、「子育て環境（保育所・学童）は……」「通勤距離はどれくらいになる？」ということも含めて、まずは知ることからはじめましょう。

「分会がつくる学校紹介」

管内には約六〇の学校があります。ひとつひとつの学校で奮闘されている学校づくりや子どもたちの様子などを知ることにはなかなか簡単なことではありません。そこで、ひとつひとつの分会が、学校の紹介をすることで、宗谷の職場づくり・仲間づくりが前進することを願っています。

雇用と年金の

確実な接続をはかるために 職場内署名にご協力を！

二〇一三年度末に退職されるみなさんからは、基礎年金相当部分だけでなく、報酬比例部分の年金支給開始年齢も二年おきに一寸ずつ引き上げられる「無年金期間」が生じます。ひと月から最大一年間の無年金期間が生じるようになります。

無年金期間が生じるこの原因は、国は当初、この「雇用と年金の接続」を、無年金期間の「定年延長」で対応するはずでしたが、現行の「再任用制度」で対応するよう閣議決定し、公務労働者に適用されている六〇歳定年制を維持した

連載のスタートです。11月2日・3日に行われる「全道合同教育研究集会」に宗谷からこそって参加できることを願ってのキャンペーンです。

今回は、「合同教研ってなに!？」です。宗谷教組をはじめとする全道の仲間「道教組」、そして道教組と手を取り合う様々な団体（教育関係以外もたくさん）が行う全道規模の教育研究集会です。

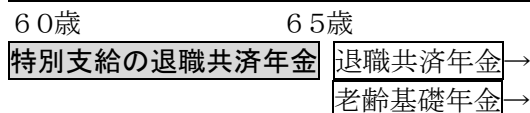
学び合う場面は大きく2つです。全体講演、4つのテーマ討論による全体の学び合い、そして24の分科会です。教科教育はもちろん、たくさんの分科会があります。

分科会へはぜひ「レポーター」として参加したいものです。学校でのお仕事の中で取り組んだもの（指導案や学級通信など）を簡単にまとめることからレポートづくりが始まります。そして、この取り組みが自身の今後の教育実践の大きな財産となります。もちろん、レポートがなくても「オブザーバー」として参加することも可能です。まずはオブザーバーとして、合同教研の雰囲気を感じに行くのもいいかもしれません。

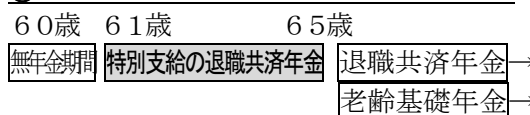
新連載♥ 学びの秋！ 合同教研で札幌に集おう！

年金支給開始年齢

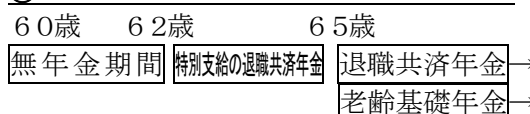
① 1949. 4. 2 ~ 1953. 4. 1 (生年月日)



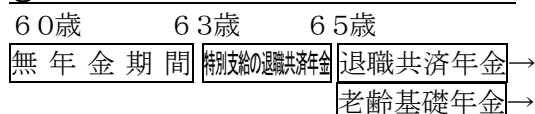
② 1953. 4. 2 ~ 1955. 4. 1



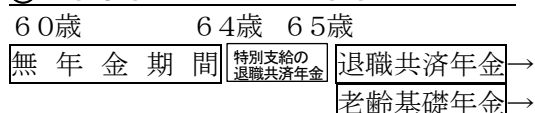
③ 1955. 4. 2 ~ 1957. 4. 1



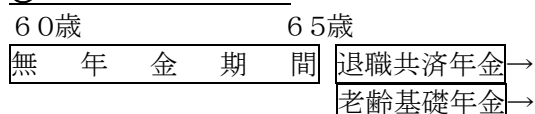
④ 1957. 4. 2 ~ 1959. 4. 1



⑤ 1959. 4. 2 ~ 1961. 4. 1



⑥ 1961. 4. 2 ~



期付・新卒者等の定数にも影響を及ぼす可能性も！

まま、政府が年金支給開始年齢を六十五歳まで段階的に引き上げたことによるものです（右図参照）。

一方で、この「無年金期間」の過ごし方として再任用制度が思い浮かびます。これまで宗谷では、再任用制度を活用して定年退職後も学校で奮闘される教職員のみなさんはごくわずかでした。再任用を希望しても希望通りの職務内容にならないことも考えられます。

さらに、無年金期間が発生すること、これまで以上に再任用制度での勤務を希望する方が増えることが予想されます。ここで大事なのが定数の問題です。「雇用と年金の確実な接続」を図

宗谷の四季

◆2学期のスタートに、枝幸支部で恒例の「夏の集い」が行われました。楽しいひとときの中に「分会紹介」のコーナーがありました。「分会が作る学校紹介」がぞくぞくと完成し、それをみんなでみあいました。どの分会もすばらしかったのですが、特筆すべきは枝幸中分会。枝幸中学校の紹介を、「え・さ・し」の頭文字から3つのエピソードでまとめたものを、新卒の水嶋先生が生き生きと語っている姿が素敵でした。

◆さあ、2学期です。「学校づくりと人事」の取り組みがスタートします。そして、学びの秋も。合同教研に参加しましょう。宗谷からたくさんのレポートを持って札幌に行きましょう。宗谷には素敵な実践・取り組みがたくさんなので。 (naity)

るためには、再任用の定数を義務標準法の枠外（いわゆる「定数外」）で位置づけることが求められます。もしも、再任用の定数を「定数内」とされた場合には、臨時教職員の雇い止め、初任者の採用抑制、さらには、再任用希望者の恣意的な排除も考えられます。こうした教育条件の悪化は防がなければなりません。

このまま現行制度の枠内での対策に終始すれば、こうした最悪の事態につながります。まずは職場内署名に取り組みしましょう。「希望者全員の再任用へ」「局単位の関係者への説明会をただちに行うこと」を求めて全教職員署名にご協力ください。